市政懇談会（町野地区）
議事要旨

日　時　令和8年10月25日(日)　13:30～14:52
場　所　町野支所　2Ｆホール
出席者　住　民：45名
行政側：輪島市　坂口市長、中前副市長、小川教育長、永井総務部長、上野企画財政部長、川端市民生活部長、河崎健康福祉部長、廣岡農林水産部長、山本産業部長、田川建設部長、木下教育部長
石川県　奥能登農林総合事務所・山口計画課長、渡邊担当課長、三輪森林保全課長　奥能登土木総合事務所・前田輪島事業調整室長、西輪島復旧復興課長、神崎輪島復旧復興担当課長
事務局：平田復興推進課長、一本松

① 市長挨拶
市　長：本日は市政懇談会にお集まりいただき、感謝する。
震災から2年10か月が経とうとしている。皆さんの感覚ではなかなか復旧が進まないと感じていらっしゃると思うが、今日説明するように、ようやく復旧・復興を加速するための準備が整った。
この10月に、被害が大きく工事量が多い全国のスーパーゼネコンに入っていただける体制を作ることができた。町野地区には、大林組・東亜建設工業の特定JVが入ることとなる。これにより、県の工事や国の工事とは別に、まずは160億円の仕事を請け負ってもらう。河川や農地、道路、水道などの工事が複雑に入り込んでおり、それぞれに発注すると調整に時間がかかるため、一体的にまとめて工事を行うECI方式を採用した。
早いものは年内、遅くとも年度内には工事が始まる予定である。輪島市全体で約1500人の作業員が入るため、道路の制限等でご協力をお願いしたい。
本日は、お手元の市政懇談会の資料に沿って、農地の不耕作の状況や病院の問題など進ちょくを記載しているが、その中から4点ほど話し、そのあと皆様のご意見や質問にお答えする。
本日は市だけでなく、石川県の土木や農林の皆様にも同席いただいているので、県道や農地に関しても質問していただきたい。また、宮下県議や大宮市議会議長も来られているのでよろしくお願いする。

② 配布資料の説明
市　長：資料1ページ「水災害に対する備えの強化」について、発災当時は避難所が過密状態になり、衛生環境の悪化による感染症リスクや備蓄不足(1800人分)という課題があった。
現在の取組として、新たに「届出避難所制度」を設けた。地域の集会所や神社などを登録し、市が備蓄食料や簡易トイレを提供する仕組みであり、すでに市内で13か所が登録されている。
また、大型トイレカー1台と軽のトイレカー2台の計3台を導入した。さらに、備

蓄計画を策定し、市全体で1万2000人分の2日分を備蓄し、市内の店舗の食料等と合わせて3日分を確保する計画としている。

資料2ページ「総合計画」について、今年度で市の総合計画が終了する。来年度からの新たな8年間の計画に向けたアンケートに協力いただき感謝する。約4割の回収率で様々な意見をいただいたので、復旧・復興にしっかりと活かしていく。

資料9ページ「災害の復旧を加速するための重点整備エリア」について、下水道や農地など工事量が多い5つのエリアを重点整備エリアとし、おおむね令和12年度の完成を目指して今年から工事に着手する。早いところでは10月に契約・着工を進めている。これにより復旧・復興を加速させていく。

資料10ページ「災害公営住宅の整備」について、ご自分で自宅が再建できない方向けに災害公営住宅を建設する。1219戸の申し出に対し、980戸の整備が確定し、残る239戸について石川県と調整中である。　町野地区では、JA町野跡地(木造長屋建て、令和10年1月完成予定、すでに安全祈願祭を実施)、町野第2団地(木造仮設住宅を転用・改修し66戸予定、来年3月着手・9月完成予定)の計画を進めている。

町野第2団地については現在居住されている方の転居などの協力が必要となるので、よろしくお願いする。

輪島市全体としては、ご自分で家を建てられた方や着工中の方を含め約700戸となっている。体制が整ったので、「もとよりもっと新輪島」のスローガンの下、より暮らしやすい地域になるよう全力で進めていく。

③ 意見交換・質疑応答

町野地区・住民：つい最近、デイサービスから連絡があり、現場に行ったところ本人が動けない状態で救急搬送された。災害公営住宅において、見守りを行う中で二度とガラスを割って入りたくない。マスターキーなどの管理について何か考えていただけないか。

市　長：常に体調の変化などの心配は起こる。災害公営住宅での緊急時の対応は、基本的には親族や警察等の立ち会いのもとで入ることになる。個人のプライバシーやセキュリティの問題もあるが、立ち会いのもとであればガラスを割らなくても入れる仕組みは考えていきたい。勝手に入ることは問題だが、立ち会いのもとで入る仕組みは検討する。また、見守りセンサーなどのアイテムも活用しながら体制を整えていきたい。

町野地区・住民：災害公営住宅の予定表について確認である。町野第2団地が来年9月頃に完成予定で、工事着工が3月とのことだが、あと5ヶ月ほどの間に準備や引っ越しなどの日程が進む。自治会としても、班の構成の見直しなどを並行して行わなければならないため、情報 sharing をしながら進められるようどのように考えているか。

川端市民生活部長：団地の改修にあたっては、一斉ではなく順次行う。行くところがないということにならないよう、どなたをどこへ動かすか現在パズルを組んでいる段階であり、でき次第ご相談させていただく。

曽々木・住民：曽々木地区の裏山に関するお願いである。雨が降ると土砂が流れ込んだり水が凄まじく、自治体単位での調整が難しい状況であり、撮影に上がることも危険で

ある。2年経った今、連絡相談先が全く分からずアドバイスをいただきたい。
田川建設部長：曽々木地区の集落の背後地の工事は国の直轄工事として砂防工事を行う予定である。いただいたご意見を国土交通省の復興事務所に伝え、今後の連絡先のご案内もする。急を要する場合は市や県にご連絡いただければ現地確認等を行う。
曽々木・住民：この会が終わった後に時間を設け、動画や写真等を見ていただき、月曜日に自治会長から再度ご連絡させていただく際、危険を生じないような対策等のご回答をいただけないか。
田川建設部長：この会が終わってから連絡先等をお聞きし、国土交通省の復興事務所に連絡して、現地の状況を確認する日程を考えたい。

金蔵・住民：工事の入札不調が続く中でECI方式を採用しているとのことだが、集落の道路や農地などの工事が全く進んでいない印象であり、なりわいが再開できない状況が続いている。地域の入札参加資格の金額の縛りなどの緩和を行い、工事を促進できないか。
市　長：入札の基準の緩和は行っているが、どこも非常に忙しく、入札していただけない状況が続いている。そのため今回、全国でも稀なECI方式を採用して工事に入っていただいている。国の工事や県の工事など複雑な調整が必要なため、調整会議を開いて進めているところである。
田川建設部長：町野エリアの5つの工種(道路・橋梁・河川・上水道・農地・農業用施設)は全て大林組・東亜建設工業のJVに一体的に任せる。ほ場整備については災害復旧のみが対象となる。
奥能登農林総合事務所：ほ場整備について、工事後に不具合が生じた際、県外の業者では手直しが困難なため、基本的には地元の方にお願いする形で現在検討を進めている。

町野地区・住民：総合計画の事業の実施状況を毎年検証して報告することになっているが、検証報告書は実際に作られているのか。
上野企画財政部長：令和6年能登半島地震以降は地震対応のため審議会を開いておらず、検証できていない。ご指摘いただいた部分は今後対応していきたい。

井面・住民：町野川改修に関して2点お尋ねする。1点目は排水のフラップゲートについてである。フラップゲートの有無で水が逆流する可能性があり、私のところは床が底部より低いため、河川から流入して市道が冠水するおそれがある。見直していただきたい。
奥能登土木総合事務所：鈴屋の合流地点から能登町の境までの復旧工事の業者は西松建設JV、三井住友(アルソシア建設)JV、そして刀祢建設、小西建設に決まっている。河口部分は権限代行で国にお願いしている。復旧工事にあたり、排水管や取水設備の調査を行っており、フラップゲートの設置も含めて検討しながら進めている。詳細な設計や工事の進め方は随時ご案内する。
井面・住民：2点目は、洪水のときに山から来る水が民地だから触れないと市に言われ、ボランティアで水路を掘ってもらった件である。大雨が降ると鉄砲水のようなものが来て市道も冠水する。何とかならないか。
田川建設部長：水路の勾配が変わっている可能性があり、まずは既設の排水路や道路側溝の

復旧を急ぎたいと考えている。民地の部分については状況を確認させてほしい。

桶戸・住民：先日、井面から桶戸に抜ける道路の擁壁が倒れて道路を半分塞いでいる件で陳情したが、仮復旧も含めて2年半以上放置されている。今度、ほ場整備の盛土等で他の道も通行止めになるため、最低限、この2か所の擁壁の撤去等の片付けをして常に通行できるようにしてもらえないか。

田川建設部長：先般、3地区の区長さん方に説明したとおり、谷内橋から川西へ抜ける道路を令和9年度中に本復旧させる。谷内橋については非出水期に仮橋の杭工事を終わらせる予定である。町野運輸さんを境にした2か所について、谷内橋側は12月から大林組によるECIによる工事に入る。調査を重ねる中で上から土砂が出る可能性を考慮し調査を行っていたが、年内には撤去工事に入り、1月からのり面の本復旧工事に入る。施工中は一時的に通行止めとなるが、通路は確保するためご協力をお願いする。

金蔵・住民：中山間地の棚田で耕作や、ほ場整備が進まず草が生えている。集落で草刈りチームを作り、延べ480～500名、年間予算400万円をかけて年3～4回草刈りをしているが、中心は70代後半で非常に大変な労力である。5年後にはさらに厳しくなる。新聞などでロボットの話題を見るが、震災で被害を受けた輪島市から国に働きかけて、草刈りロボットの開発・導入のきっかけを作ってもらえないか。

廣岡農林水産課長：中山間地域等直接支払交付金を利用していただくことが一つのお願いである。ロボットに関しましては良いアイデアだと思うが、実現のハードルは高いと考えている。県を通じて相談させていただくことは可能である。

市　長：草刈りは全国的な問題であり、国でも対策を考えているがまだ十分ではない。また、自動運転の車などAI技術を活用した移動手段なども近い将来実現に向かっている。ロボットに限らず、草を刈ってくれる機械などコストが下がり普及すれば、輪島市としてもすぐに導入したいと考えている。

町野第1団地・住民：町野第1団地の前方に、小学校プールの跡地を利用して駐車場を作っていただけると聞いており、早ければ9月、遅くとも10月に始まると聞いていたが、全く始まる気配がない。計画に入っているのか。

市　長：設計は終わっているが、工事を行う業者がまだ決まっておらず調整中である。できるだけ早く進める。

井面・住民：陳情の対応について伺う。震災後に河川側が崩れて穴だらけになっており、区長を通じて陳情しても「市道ではなく民地だ」と言われて放置されていた。しかし、最近LINEで写真を送ったところ、その日のうちに「どうぞ工事してください」と対応が変わった。この対応の違いはどういうことか。

田川建設部長：申し訳ない。職員の数が少なく対応しきれていない部分があった。最初の段階では市道に直接危険がないと職員が判断したのかもしれないが、被害がひどくなっている中で対応が遅れたことはお詫びする。今後はこのようなことのないよう、担当課長や私に直接言っていただいても構わないので対応する。

寺山・住民：今回の豪雨で道路や鈴屋川の橋がなくなった。佐野の林道が唯一のアクセスだが、雨が降ると大変危険である。寺山地区まで佐野林道以外で行けるようになるのはいつ頃の見通しか。また、高齢化が進む中、町のにある高齢者施設「みやび」のような認知症対応のグループホームやデイサービスを早く復旧・充実させないと、孤独死等の問題が発生するのではないかと心配である。

奥能登土木総合事務所：寺山集落へのアクセスについては最優先で取り組む課題と認識している。現時点で何年度に完了するか明確なお示しはできないが、担当者が話したように4～5年程度を目処に進めたいと考えている。被害が甚大であり、水道工事等との調整もあるが、仮の道なども含めてスケジュール感に沿って進められるよう工夫する。

河崎健康福祉部長：今年4月1日から「みやび」の跡地に認知症高齢者グループホームが開設され、現在12名の方が入居しており、将来的に27名程度まで増やしたいと考えている。また、デイサービスも行っているので、ぜひ地域の皆様にご利用いただき、施設を盛り上げていただきたい。

廣岡農林水産部長：林道の件については、基本的には通行止めとして周知している。地元の方々や公費解体の方々がやむを得ず危険な状態の中で通られているのが現状であり、通行には十分お気をつけいただきたい。

鈴屋・住民：災害公営住宅について、第1希望と第2希望があり、第2希望に行かれる方が25世帯ほどいらっしゃるが、もし第1希望に空きができた場合、第1希望に移ることは可能か。

川端市民生活部長：基本的には第1希望に入れなかった方が第2希望となっているため、第2から第1へ移るということは考えていない。ただし、第1団地の方で10戸など大きな空きが出たような場合には検討することもあるかと思うが、現時点では大きな変化はないものと考えている。

桶戸・住民：県道及び里町へ下りるルートの今後の計画について説明していただきたい。また、町野地区の防災拠点としての「届出避難所」の申請をしたが、今後の対応についても伺いたい。

奥能登土木総合事務所：金蔵川西線については、崩落区間から東院内にかけて、現道である珠洲里線の復旧が困難なため、バイパス線としてトンネル計画の設計を進めている。トンネル工事には約4～5年程度はかかる見込みである。その間のう回路についても盛り土等の工事を並行して行い、改善する方向で考えていく。また、東院内から国道249号に至る柳田里線についても、河川改修に合わせて2車線を確保できるような道路改良工事を発注・予定している。

永井総務部長：届出避難所の申請については、既に防災対策課の方で把握しており、条件を満たしていれば防災資材等の導入に向けて来週以降に現地確認を行う予定である。




坂口茂